

江東区 昔と今



名所江戸百景 大はしあたけの夕立 歌川広重 (国立国会図書館 所蔵)

旧新大橋は、元禄6年(1693)に現在の位置から200mほど下流の隅田川に架けられた木橋で、千住大橋・両国橋に続く3番目の橋です。両国橋(千住大橋とも)を大橋といったことから、新大橋と名付けられました。橋の近くに住んでいた松尾芭蕉は、架橋を喜んで「有難やいただいて踏むはしの霜」と詠みました。

明治になり交通量が増えたため、明治45年(1912)に鋼鉄橋として現在地に架け替えられました。大正12年(1923)の関東大震災の際には、隅田川の他の橋が通行不能となる中、避難の道として多数の命を救い、「お助け橋」と呼ばれました。その後の戦災にも耐えましたが、老朽化のため昭和52年(1977)に現在の橋に架け替えられました。

新大橋



現在の新大橋 「魅力百様、江東区。オンライン観光写真コンテスト」 入賞作品より